

# 東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター カトリック仙台司教区・カリタスベース

(宮古・大槌・釜石・の障がい者センターかまいし・大船渡・米川・石巻・福島デスク・原町・もみの木・CTVC)

発行人：平賀徹夫  
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12  
カトリック仙台司教区事務局  
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378  
1) 義援金振替口座:02260-9-2305  
名義:カトリック仙台司教区本部事務局  
2) 支援金振替口座:00170-5-95979  
名義:カリタスジャパン

2011年3月11日から丸5年を迎え、本「ニュースレター」先号でも各ベースでの3月11日の被災地追悼の祈りや思いなどを皆様にご紹介いたしました。しかし、記事をお寄せくださったすべてのベースのご紹介ができませんでしたので、本号でも続けてご紹介いたします。今回ご紹介するのは、亘理・山元町で支援活動を行っている「カトリック東京ボランティアセンター」と、原町ベース、宮古ベースでのそれぞれの3月11日をご紹介いたします。さらに、4月14日、16日と甚大な被害を及ぼした熊本地震の熊本、大分の被災者支援のため、「カトリック福岡教区熊本地震被災者支援室」が立ち上がりました。東日本大震災と熊本地震のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 亘理町・山元町の3月11日

CTVC-カトリック東京ボランティアセンター 山崎 恵

震災から5年目の3月11日、CTVCのメンバーは、宮城、福島、東京で祈りのときを過ごしました。宮城県南部では、毎年カトリック亘理教会での追悼ミサと山元町の「追悼の竹灯ろう」に参加しています。福島県南相馬市のカリタス原町ベースでお手伝いをしてくださるシスター方にも一緒に参加していただいておりますが、今年は東京からのボランティアも加わりました。

亘理教会でのミサには、亘理や近隣の教会の方々のみならず、仙台からも多くの方々が出席されました。ミサが終わると、町内で最も被害が大きかった荒浜地区に移動し、地震発生時刻の午後2時46分には防災無線のアナウンスを合図に、黙祷をささげました。



亘理町荒浜地区にて、ホセ神父様はじめ多くの方と祈りをささげました

その後、昨年4月に開設されたマリアの宣教者フランシスコ修道会の亘理修道院へ。手作りのお菓子や亘理町名産のいちご、温かいコーヒーをいただきながら交流を深める和やかなひとときでした。

夕方からは、山元町の沿岸部にて行われている「追悼の竹灯ろう」に参加しました。JR常磐線の旧坂元駅では、山元町に定期的に来られているボランティアの方々が、メッセージ入りの竹に火をともし最中でした。坂元駅の周辺は居住禁止となり、線路やホームも撤去されています。唯一残されている観光案内板の前で、総勢14名のシスターによるSalve Regina（「元后 あわれみの母」）、東京から来られたゴスペルクワイアによるHear My Prayer（「わが祈りを聞き入れたまえ」）の歌声が響きました。



更地が広がる場所でシスターやゴスペルクワイアの方々の歌声が響き渡りました



メイン会場の旧山下駅前では、テントの下にたくさんの灯ろうが並び、曹洞宗僧侶による読経など諸宗教の祈りも行われました。今回は粘土でできた小さなお地藏さまも奉納されました。陶芸をされる地元の方が、昨年秋ごろより作り始めたものです。最初は311体作ることが目標とされていましたが、地域住民やボランティアなどが製作に加わり、当日までに600体以上が完成しました。



旧山下駅前に並べられた灯ろうとお地藏さま

今年は震災当時と同じ金曜日だということもあり、5年前の状況について鮮明に思い出し、語られる方が多かったように思います。災害公営住宅や新市街地の建設が進み、町の様子が変わりつつありますが、気持ちや生活を切り替えることを難しく感じている方もいらっしゃいます。地域の方々とともに祈り、歩んでいきたいという思いを新たにしたい1日でした。

## 2016年3月11日 前後の出来事

CTVC カリタス原町ベース 島中 千秋

「世界の幸福に核・原発・兵器はいりません。人の中の仏心へ祈り、国・宗教・世代・収入…様々な違いを超える繋がりを感じ、お互いに育みたく、今年も一歩一歩祈り歩いてまいります。」

日本山妙法寺主催の「命の行進」の告知のチラシにこう書いてありました。「命の行進」は3月3日、宮城県仙台仏舎利塔から出発しました。岩沼、山元を通り、福島県南相馬市原町に入り、いわきへと続き、福島県浜通りを南下し、4月14日、奥多摩仏舎利塔が最後の予定地になっています。



3月8日に、CTVC カリタス原町ベースに「命の行進」参加者の8人の方が宿泊されました。9日の朝8時過ぎに、原町から小高へ向けて行進は続き、9日に同慶寺から沿岸部の請戸へ向けて行進となりました。請戸港の岸壁で追悼の祈りをささげました。同慶寺に戻り、14時頃に「東日本大震災6回忌追悼法要」がありました。

2013年3月11日に南相馬市小高区同慶寺と東京都四谷イグナチオ教会の合同の「東日本大震災 追悼の祈りのつどい」を持ちました。原町ベースは、2014年から「命の行進」一南相馬市小高区周辺および浪江町請戸までの行進と東日本大震災追悼法要一に参加しています。



日本山妙法寺の方々は「南無妙法蓮華經」を、同慶寺の方々は「般若心經」を、そして、私たちカトリック修道女・司祭・信徒の皆さんは「東日本大震災被災者のための祈りII」を提示して、全員で唱えました。宗教も宗派も異なる皆がそれぞれのお祈りを尊重しつつ、平和な世界・命を大切にする世界を祈念して共に唱えることができましたことは、素晴らしいことだと感動いたしました。

東日本大震災発災から5年の間、人と人がつながり、心と心がつながり、多くの方々との心の交わりを持つことができました。このつながりのおかげで活動を続けて来られたのだと改めて神様に感謝です。

2016年、南相馬市は、鹿島町、原町市そして小高町の3地域が合併して「南相馬市」となって10年目を迎えました。それぞれの地域の特徴を生かして一つになり始めた5年前、東日本大震災の地震と津波の被災があり、さらに東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射能被災による分断が三つの地域に重なるように分かれてしまいました。

しかしながら、南相馬市では、東日本大震災に伴う原発事故を克服し、原子力エネルギーに依存しないまちづくりを推進していくことを広く市内外に表明するため、2015年3月25日「脱原発都市宣言」を告示しました。2011年11月8日、日本カトリック司教団では、「いまずぐ原発の廃止 ～福島第一原発事故という悲劇的な災害を前にして～」を出しています。

CTVC カリタス原町ベースは南相馬市にあり、避難指示解除準備区域での活動、仮設住宅集会所でのサロン活動のニーズはまだあります。ボランティア活動もまだ求められています。現状を知ることからボランティア活動は始まります。来て見てください。

#### 脱原発都市宣言 (平成27年3月25日 告示第29号)

2011年3月11日、東日本大震災により南相馬市は未曾有の被害を受けた。

さらに東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い6万人を超える市民が避難を余儀なくされ、多くの市民が避難の中で命を落とした。

家族をバラバラにされ、地域がバラバラになり、まちがバラバラにされ、多くの人が放射線への不安を抱いている。

南相馬市はこの世界的災害に立ち向かい復興しなければならない。

未来を担う子どもたちが夢と希望を持って生活できるようにするためにも、このような原子力災害を二度と起こしてはならない。

そのために南相馬市は原子力エネルギーに依存しないまちづくりを進めることを決めた。

南相馬市はここに世界に向けて脱原発のまちづくりを宣言する。

## 震災から丸5年を迎えて

カリタス宮古ベース世話人 武田五郎

札幌カリタス宮古ベース主催の3.11復興祈願・追悼ミサは、今年も札幌教区の勝谷太治司教の主司式、5人の司祭団との共同司式、そして4月に司祭叙階される佐藤助祭の奉仕によりささげられました。

北1条教会カテドラルには、250名の参列者が集い、2万人を超える犠牲者・行方不明者と被災された多くの方々に思いを寄せて祈りをささげました。



札幌教区事務局長、札幌カリタスの責任者である上杉昌弘神父様の説教では、大槌町「風の電話」が紹介されました。東日本大震災で死者861人、行方不明421人の命が失われた大槌町の海を望む高台に、電話線が繋がっていない電話ボックスがあります。それは会えない相手に思いを伝える大切な静かな祈りの場所となっているのです。説教では、この風の電話で語られた様々な被災者の言葉をていねいに紡いで話されました。そして、いつくしみの特別聖年を過ごすわたしたちが、被災者に寄り添って新たな熱意をもって取り組んでいくことが必要ですとの力強い感動的な言葉でお説教を締めくくられました。

ミサ後、天使大学生2名によるボランティア体験報告がありました。パワーポイントを駆使したプロジェクターの映像で、わかりやすく的確な発表でした。自分たちには何が出来るのだろうかと不安の中で訪れた中で彼女たちが学んだことは、忘れないという思いを伝えるためには現地を訪れ、被災者のみなさんひとり一人に寄り添うことですと



天使大学の学生によるボランティア体験報告



「奏楽」グループによる演奏

語りかけてくれました。

午後2時46分には黙祷がささげられましたが、ちょうどこの時間帯を挟んで行われた「奏楽」グループの演奏会も感動的でした。ヴァイオリン、フルート、ピアノによる「主よ人の望みの喜びよ」「アヴェマリア」のメロディーが聖堂ホールいっぱい響きました。3人の女性演奏家の皆さんは、これまでに何度も宮古を訪問されております。札幌カリタスの支援を受けて被災地を訪問し、仮設住宅に住む被災者の皆さんの前で演奏すること、また今回のように教会の聖堂ホールで演奏することが音楽的にも貴重な糧となっていると感謝の言葉をいただいたことはうれしいことです。

当日の参加者のなかには復活祭で洗礼を受ける方もお見えになっておりましたが、カトリック教会が被災者に寄り添ってずっと支援を行っていることを初めて知ることができ、神様と自分とのつながりが他者との関係で実現されていくことを感じました、などの感想を語ってくださいました。

聖堂での全予定を終了後、カテドラルホールにはたくさんの方々が集まり、コーヒーサービスのほか宮古物産のワカメやクラフト製品・手芸品の展示販売などで賑わいました。

必要とされる限り被災者に寄り添い続けることを皆さんと共にまた思い起こした5回目の3月11日でした。

## 熊本地震 ご支援のお願い

熊本県及び大分県において、2016年4月14日21時26分(前震)と4月16日1時25分(本震)の二度にわたり、最大震度7を観測した地震が発生しました。前震や本震以降も、熊本、大分両県では、震度1以上の地震が1,000回を超えるなど、今なお地震活動が活発に続いています。

この熊本県や大分県など九州地方での地震を受け、福岡教区は4月18日に現地視察を行い、20日、「カトリック福岡教区熊本地震被災者支援室」を立ち上げました。そして、現在、現地支援ボランティアベースの設置にむけて、準備をしているところです。

また、カトリック福岡教区の教会・修道院の施設被害状況や支援に関する情報は、福岡教区熊本地震被災者支援室のホームページやフェイスブックに掲載されておりますので、ご覧ください。

### 《カトリック福岡教区 熊本地震被災者支援室》 ホームページ

<http://fukuoka.catholic.jp/ejsien.html>

### フェイスブック

<https://www.facebook.com/fukuoka.diocese.relief/>

カリタスジャパンでは、4月18日より熊本地震被災者支援のために寄せられる募金受付を開始しましたが、現地の支援体制が整い、また支援の長期化が見込まれていることから、22日をもって募金を「呼びかける」ことに変更しました。お寄せいただいた募金は、上述の福岡教区「支援室」およびその他の団体による支援活動のために活用させていただきます。

また、福岡教区でも募金を受け付けています。こちらは教区の判断によって、教会の修復やカトリック関係の被災者支援にも活用されます。

多くの皆さまのご支援、ご協力をお待ちしております。  
どうぞよろしく願いいたします。

### 《カリタスジャパン〈熊本地震〉緊急募金受付口座》

郵便振替番号：00170-5-95979

加入者名：宗教法人カトリック中央協議会カリタスジャパン

通信欄に「熊本地震」とご明記ください。

### 《福岡教区 義援金受付口座》

郵便振替番号：01760-6-20729

加入者名：カトリック福岡司教区

通信欄に「熊本地震支援金」とご明記ください。

\*振込みに関するお問い合わせ先\*

カトリック福岡教区本部事務局(092-522-5139)



アーケードの一部が崩壊した健軍商店街(熊本県熊本市東区)

## 第25回全ベース会議開催

4月27日(水)、第25回全ベース会議が開催されました。今回は、午前、公益財団トヨタ財団 東日本大震災特定課題担当の本多史朗氏から「復興(災害)公営住宅への支援に向けて一市民としての仙台の皆さまがなしうること」と題し、講演していただきました。この講演会には、全ベース会議出席者以外に、仮設住宅でのお茶会開催など、被災者への支援活動を継続的に行っている近隣教会の信徒の方などにもご参加いただきました。

講演では、復興公営住宅の抱える内側での孤立と外側での孤立という2つの大きな問題についての説明と、その2つの問題への取り組み、市民としての仙台の皆さまが何をなしうのかについてお話しがありました。

※復興公営住宅の抱える内側での孤立と外側での孤立という2つの問題については、ニュースレター第79号に掲載しております。2つの問題への取り組みについては、紙面の都合上、次号でご紹介させていただきます。

昼食をはさみ、午後の会議は、まず各ベースからスタッフの変動を含む新年度の体制と活動について簡単な報告がありました。報告後は、スカイプを使用して、東京のカリタスジャパン小野亜衣子さんから、熊本地震におけるこれまでの経過と今後のベース立ち上げ計画について説明がなされました。

その後、参加者がサポート会議とベーススタッフ会議に分かれ、それぞれの議題について話し合い及び意見交換が行われました。



### 《仙台教区サポートセンターからのお知らせ》

仙台教区サポートセンターでは、2016年4月より、以下の体制で、活動いたしております。また、仙台教区サポートセンターとして行っておりました「子ども支援活動」は、今年度は休止することにいたしました。

今後ともご支援、ご協力くださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

#### 仙台教区サポートセンター

センター長 平賀 徹夫  
事務局長 小野寺洋一  
事務局次長 濱山 麻子

住所 〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町1-2-12  
カトリック元寺小路教会2階  
電話 022-797-6643 FAX 022-797-6648

※5月より、事務局の場所が、これまで使用していた部屋の奥隣へ移転しました。住所、電話番号等に変更はございません。